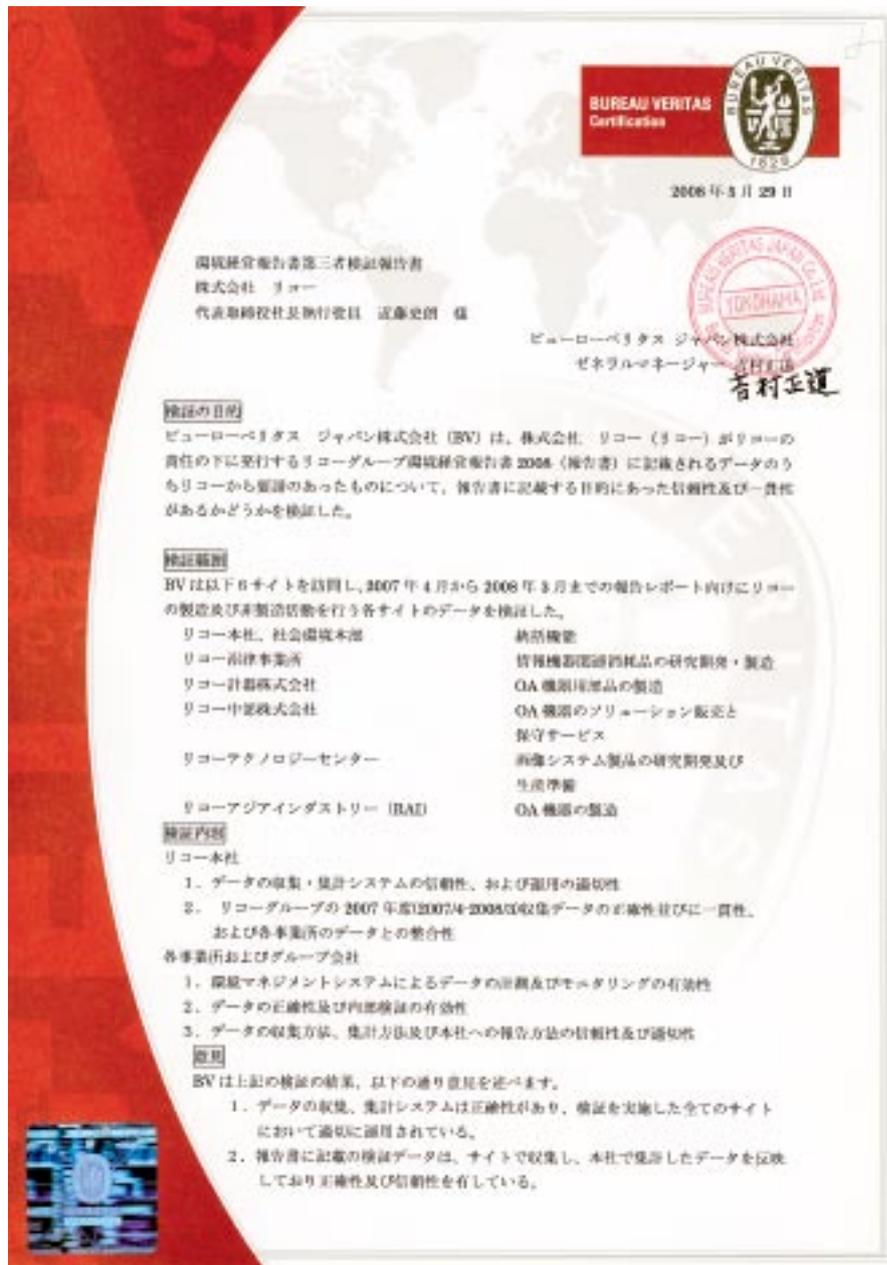


リコーグループは、環境パフォーマンスデータとその収集・集計システム（環境経営情報システム）について第三者検証を受審し、環境経営報告書を通じてステークホルダーの皆様へ情報を開示しています。また検証結果を環境経営の改善・進歩のために役立てています。2004年度からは「システム検証」の考え方を取り入れました。データ間の整合性に加えて、システムが信頼性の高いデータを収集・集計するために有効に機能しているかどうかを検証されています。今後も、第三者検証をより有効に活用し、継続的な改善を進めていきます。



■ 参考所見

BVは、リコー本社及び検証実施サイトのデータの検証過程において、その都度、気づきや意見を報告してきた。それらを含めた全体的な所見は、以下の通りである。

1. 良かった点

- リコーグループ全体のデータを収集・集計するシステムの自動化による完成度は高く、信頼性及び運用の適切性において問題点はほとんど見当たらなかった。
- 沼津事業所において、倉庫の壁面にソーラーシステムを採用するなど積極的に環境設備投資が行われていた。
- 事業所内に存在するアスベストのデータが把握され、日常管理も適切に行われており、前向きにリスクマネジメントに取り組んでいる。
- リコー計器の地下汚染に関して、社内で汚染が十分に認識され適切な管理が行われていた。本社とも緊密に連携が行われており、リスク管理は良好であった。

■ BV検証済データ一覧

| ページ | 番号 | 名称 | 検証番号 |
|-----|----|--|------|
| 23 | — | リコーグループ15次環境行動計画(2005年度～2007年度)／結果 | (1) |
| 27 | ① | 《日本》エネルギー消費量の推移 白黒複写機・複合機 | (2) |
| | ② | 《日本》エネルギー消費量の推移 カラー複写機・複合機 | (3) |
| | ③ | 《日本》省エネモードからの復帰時間の推移 カラー複写機・複合機 | (4) |
| | ④ | 《グローバル》QSU技術によるCO ₂ の削減量 | (5) |
| 30 | ① | 《グローバル》複写機・トナーカートリッジの回収実績／再資源化率 | (6) |
| | ② | 《グローバル》再生資源使用量の推移 | (7) |
| 31 | ① | 前身機(新造機)と再生機のLCA比較(CO ₂ 排出量) | (8) |
| 33 | ① | 《グローバル》製品の環境影響化学物質排出基準達成状況 | (9) |
| 38 | ① | 《日本》エネルギー使用量 リコーグループ(生産) | (10) |
| | ② | 《日本》エネルギー使用量 リコーグループ(非生産) | (11) |
| | ③ | 《日本》主要なエネルギーの使用量内訳 リコーグループ(生産) | (12) |
| | ④ | 《海外》エネルギー使用量 リコーグループ(生産) | (13) |
| | ⑤ | 《リコーグループ全体》CO ₂ 以外の温室効果ガス排出量(CO ₂ 換算) リコーグループ(生産) | (14) |
| 42 | ① | リコーロジスティクスの輸送におけるCO ₂ 、NO _x 、SO _x 排出量 | (15) |
| 44 | ① | 《リコーグループ全体》廃棄物総発生量 リコーグループ(生産) | (16) |
| | ② | 《リコーグループ全体》水の使用量 リコーグループ(生産) | (17) |
| | ③ | 《日本》廃棄物再資源化率／総発生量／総排出量／最終処分量 リコーグループ(生産) | (18) |
| | ④ | 《日本》廃棄物再資源化率／総排出量／最終処分量 リコーグループ(非生産) | (19) |
| | ⑤ | 《海外》廃棄物再資源化率／総発生量／総排出量／最終処分量 リコーグループ(生産) | (20) |
| 47 | ① | 《リコーグループ全体》リコー削減対象物質の使用量・排出量推移 リコーグループ(生産) | (21) |
| | ② | 《リコーグループ全体》公害防止関連項目(NO _x 、SO _x 、BOD)の排出量推移 リコーグループ(生産) | (22) |
| 49 | ① | リコーグループ生産関連事業所 地下水汚染調査結果と浄化状況(2008年3月現在) | (23) |
| 57 | — | 事業活動全体のエコバランス(2007年度) | (24) |
| 59 | — | 2007年度 リコーグループのコーポレート環境会計 | (25) |
| 79 | — | サイト別データ | (26) |

2. 今後の課題

- データの入力ミスを防ぐ仕組みが弱いサイトが散見された。以前審査したサイトの中には入力ミスを防ぐ仕組みを多数取り入れて高い信頼性を確保しているところが多く見られたので、これらの良い事例をグループ内で共有できると良い。
- 化学物質排出移動先の分配係数に関して、対応しているが、やや不適切な点が見受けられた。改善のために、内部コミュニケーションの強化を推進して欲しい。
- 昨年度の第三者検証で挙げた、中国の生産拠点の蒸気量の計上に関しては、来年度が、次の中期計画の初年度に相当するので、より完成度の高い報告を推進するため、新しい集計基準で計上を検討されることを期待する。